

## 第4学年C組 図画工作科学習指導案

授業者 大森 果歩  
研究協力者 長瀬 達也、坂本 英駿

### 1 題材名 Future FUZOKU School !

#### 2 子どもと題材

##### (1) 子どもについて

自分が表したいことを自由に発想し、様々な材料や用具、技法を用いて表現することに意欲的に取り組んでいる。本題材に至るまでに、クレヨンやパステルでぼかしながら重ねてできた色の鮮やかさを感じたり、ローラーやスポンジ、ブラシを使って様々な表し方を試す造形遊びを楽しんだりしてきた。絵の具を用いたスパッタリングやドリッピングなどという新たな表し方も学び、表現の幅が広がってきている。さらに、運動会に向けて各組にエールを送る学級制作を通して、自分一人では表し方が思い付かなかったり表現が滞ってしまったりする子どもも、友達とデザインについて話し合いながら協力して表す楽しさや達成感を味わうことができた。また、造形的視点に基づいて自分や友達作品を鑑賞することで、形や色、線などを描き加えたり濃淡を付けて表してみたりと、更に工夫して表現しようと試行錯誤する姿も見られた。このように、自分の思いや考えをもって表すことに没頭できる子どもがいる一方で、表したいことをよりよく表すためにどのように工夫するかを考えたり、考えたことを様々な表し方で表現したりすることが苦手な子どももいる。

そこで、全員が楽しみながら、よりよい表現を追究することに没頭できるような題材構成の工夫が重要であると考え。本題材を通して、一人一人が思いや考えをもって友達と協働しながら、持続的によりよく表現することに没頭し、自己の学びを深めていく子どもの姿への変容を期待する。

##### (2) 題材について

本題材を通して期待できる具体的な姿として考えているのは、表したいことについて想像を広げ、表現を発展させていく姿である。題材を構成するに当たり、同時期に行っている総合的な学習の時間の多様性理解学習との関連から、多様な人々を意識した上でみんなが笑顔で過ごせる未来の学校について発想することにつながると考えられる。そして、この題材は自分だけの学校ではなく、みんなで創り上げる学校である。みんなが「Future FUZOKU School !」を表すという目的意識の下、それぞれが表した未来の学校を組み合わせたりつなげたりして、表し方を話し合う。よりよい表現を求めて表したいことのチームで友達と対話をする中で、友達と協働しながら更に表現世界を発展させ、新たな考え方や表し方に気付く姿が期待できる。

また、どのように工夫して表したらいいか考えて表現することが苦手な子どもも、友達と一緒に楽しみながら表現をし続けることができると考える。大阪万博の未来の日本社会が発想のきっかけとなり、どの子どもも未来の学校についてのアイデアを思い思いに表現するだろう。ある程度描いて満足してしまう子どもも、自分一人での表現から友達と協働で表すという題材構成の中で、友達とアイデアや表し方を対話したり鑑賞したりすることで、もっと工夫できないか思考し続けることができると考える。このように、本題材では、全員がよりよい表現を追究することに没頭する姿が期待できる。

##### (3) 指導について

本題材では、**みんなが笑顔で過ごせる学校になるように、形や色を工夫して表す資質・能力の育成を目指す。**

授業デザインの取組一つ目との関連から、子どもたちが自ら造形的な気付きを獲得することができるような環境づくりをする。そのために、これまでの学習で見いだしてきた様々な表し方をホワイトボードに掲示したり、造形的視点の形や色を示したボードを用意したりする。また、タブレット端末を活用し、自分が表したものを写真に撮り、毎時間の学びを記録する場を設けることで自分なりの価値や意味をつくり出すことができるようにする。

授業デザインの取組二つ目及び三つ目との関連から、子ども同士の学び合いの場を工夫する。まず、一人一人の思いや考えを表現することができるように、自分が表したい学校を自由に絵に表す時間を設ける。そこから、表したいことが同じチームで活動できるように、自由な学習形態を保障する。そうすることで、友達と新たなアイデアや表し方について話し合いながら試行錯誤を重ね、よりよい表現を求めて表すことに没頭できると考える。また、友達と協働で表していく上で、自分が表したいことと相手が表したいこととの対立が生じるときにも、自由な学習形態により、別のチームが表しているものを鑑賞してみたり、それぞれのチーム同士が連携したりして解決方法を一緒に考えることにつながると考える。

### 3 題材の目標〈記号は本校の資質・能力表による〉

- (1) 表したいことに合わせて表し方を工夫して表すことができる。 〈e30〉
- (2) 表したいことを見付け、どのように表すかについて考えることができる。 〈d21、d22〉
- (3) 想像したことを表現したり、鑑賞したりする活動に主体的に取り組もうとする。〈a3、f37〉

4 題材の構想 (総時数 6 時間)

題材「附属小学校の木々」  
木の形や色などを基に自分の思いに合った表し方を考え、工夫して絵に表す。

本題材

時間	学習活動 (・は予想される子どもの姿)	教師の主な支援	評価 (本校の資質・能力との関連)
1	(1) 多様な人々が笑顔で過ごせる「未来の学校」について話し合う。 ・未来の日本は進化している！ ・学校はどうなるのかな？	・「未来の学校」について自由に発想を広げることができるように、未来の日本社会の映像を提示する。	・「未来の学校」を想像する活動に主体的に取り組んでいる。〈a3〉
2	(2) 「未来の学校」を一人一人絵に表す。 ・円形のタワーみたいな形にして十階建てにしよう。 ・それぞれの教科の勉強スペースをつくろう。	・自分が表したい「未来の学校」を絵に表すことができるように、子どもたちと対話をしながらアイデアを引き出す。	
「Future FUZOKU School！」 みんなでどう表す？			
3	(3) みんなで「Future FUZOKU School！」を絵に表す方法を話し合う。 ・タブレットコーナーや読書スペース、運動するところがたくさんある学校がいいね。 ・〇〇さんのはとの子みたいな形の学校がいいのではないかな。	・みんなが表した「未来の学校」の絵を鑑賞し、組み合わせたりつなげたりして「Future FUZOKU School！」の構想を共有する場を設ける。	・表したいことを見付け、どのように表すかを考えている。〈d21、d22〉
4	(4) チームで「Future FUZOKU School！」を絵に表す。 ・運動するところは、サッカー場、野球場とか場所を分けよう。 ・色は、〇〇さんが表しているみたいにカラフルにしようよ。	・友達と自由に話し合いながら、表したいことを表現することができるように、表したいことのチームで活動するよう促す。	
「Future FUZOKU School！」 みんな笑顔で過ごせる？			
5 本 時	(5) 新たなアイデアや表し方を話し合い、工夫して絵に表す。 ・勉強スペースごとに、色を変えて表すと分かりやすいね。 ・読書スペースのテーブルとかソファはどんな形にしようか。 ・まだ使っていないスパッタリングで表せないかな。	・表したものを更に発展させることができるように、新たな問いを引き出す。 ・表し方の工夫を考えることができるように、鑑賞したり話し合ったりする時間を設ける。 ・表現の工夫の変容を捉えることができるように、タブレットに写真を記録しておく。	・表したいことに合わせて表し方を工夫している。〈e30〉
6	(6) 完成した作品を見合い、造形的なよさや面白さなどを味わう。 ・こんな学校で過ごしてみたいな。 ・表し方が工夫されているね。	・みんなで協力して表す楽しさや達成感を実感することができるように、自他の表現意図や感じ取ったよさなどを伝え合う場を設ける。	・自他の作品の造形的なよさや面白さなどを感じ取っている。〈f37〉

◎本題材で育む主な資質・能力  
みんなが笑顔で過ごせる学校になるように、形や色を工夫して表す。(e30)

題材「ほった線からはじまる物語」  
彫刻刀で彫ることを通してできる線の感じから表したいことを思い付き、工夫して版に表す。

5 本時の実際（5／6）

(1) ねらい 形や色に着目し、みんなが笑顔で過ごせる学校になるように友達と一緒に表す活動を通して、工夫して表すことができる。 (e30)

(2) 展開

○自律的に学習を進めるための支援

時間	学習活動	教師の支援 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">評価</span>
8分	<p>① チームごとに表している絵を鑑賞し、新たな問いについて話し合う。</p>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>「Future FUZOKU School！」 みんな笑顔で過ごせる？</p> </div>		
	<p>&lt;予想される子どもの反応&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・勉強スペースごとに、色を変えて表すと分かりやすいね。</li> <li>・読書スペースのテーブルとかソファはどんな形にしようか。</li> <li>・まだ使っていないスパッタリングで表せないかな。</li> </ul>	<p>○前時よりも更に発想を広げて表現を発展させることができるように、新たな問いを引き出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表し方を追究することができるように、それぞれのチームの絵を鑑賞しながら話し合う時間を設ける。</li> </ul>
32分	<p>② チームごとに「Future FUZOKU School！」を絵に表す。</p> <p>&lt;予想される子どもの反応&gt;</p> <p>【材料や用具を選択しながら描く】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サッカー場、野球場、走る場所など遊ぶ種類によってスペースを色分けして表そう。</li> <li>・読書スペースのテーブルとソファは、丸や四角などいろいろな形にして、別の紙に描いて貼り付けよう。</li> <li>・音楽室には、もっといろいろな楽器を置きたいな。タブレットで調べて描き足そう。スパッタリングが使えないかな。</li> </ul> <p>【何をどう表したらいいか悩んでいる】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットコーナーには何があるといいかな。</li> <li>・他の表し方を使ってみたいけど、どうしよう。</li> </ul> <p>【ある程度描いて満足する】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これ以上、表す物がないなあ、どうしよう。</li> <li>・もう全部描いてしまったからやることがないなあ。</li> </ul>	<p>○表したいことに合わせて表し方を選択・決定することができるように、様々な材料や用具を準備しておく。</p> <p>○表し方の工夫を考えることができるように、グループボードに造形的視点となる形や色、表し方を示しておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表し方に困り感をもっている子どもの悩みをチームの友達と共有して解決できるように、どう表すかみんなで対話する。</li> <li>・活動が停滞している子どもがいた場合は、他のチームの工夫を見付け、自分のチームに生かせないか助言する。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>みんなが笑顔で過ごせる学校になるように形や色の表し方を考え、工夫している。 (e30) (活動の様子・対話・作品)</p> </div>		
5分	<p>③ 本時の学びを振り返る。</p> <p>&lt;予想される子どもの反応&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日は、たくさん色を使ったり形を工夫したりできた。</li> <li>・今度はもっと色々な表し方を使ってみたいな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の学びを振り返ることができるよう、新たに学んだことや気付いたことなどをタブレットにまとめる時間を設ける。</li> </ul>

# 令和7年度 図画工作科実践・研究計画

部 員 ○三浦茉莉、大森果歩

## 1 昨年度の成果と課題

昨年度の実践を通して、図画工作科における自律した学習者の姿が見えてきた。

① 1年「ふしぎなせかいでみつけたよ〜くもにのって〜」の題材では、活動の流れに沿って自然な形で鑑賞が行われるように、学習形態を少人数のグループにした。ある程度表現を進めて、活動が止まっていた子どもが、教師と向かいの友達との対話の様子を見聞きして、自分の表現に取り入れようとする姿が見られた。また、グループで向かい合っていた子ども二人のうち、一人はお菓子の世界を、もう一人は遊べるところがたくさんある世界を想像していた。互いに「ここは…な場所でね」「このブランコは…」などと自分の想像した世界を語り合うことでさらに想像が膨らんでいくという様子であった。近くのグループの友達が渦巻き型の雲を作っていた様子を見て、自分でも作る子どもが現れるなど、自然に鑑賞と学び合いが生まれ、表現の自己決定に刺激を与えていたと言える。子どもが自らの目的に応じて自由に使える白画用紙を教室前方に置くという場づくりも行った。子どもたちは、紙を取りに移動する間に、他のグループの友達の作品を鑑賞したり、友達と対話したりしていた。このような場の工夫の成果として、子どもが必要としている造形的な気付きを、その子にとって必要なタイミングで得られたことが挙げられる。子どもの表現活動の流れを止めることなく、自然な形で発展させていくために、学習形態や場づくりといった工夫が有効であったと考える。

② 2年次から継続して、子どもとの対話を大切にきた実践を行ってきた。前述した1年「ふしぎなせかいでみつけたよ〜くもにのって〜」の題材においても、子どもが想像したことを聞き出すような問い掛けを試みた。学習が始まって間もない時は、「雲に乗ってどんな世界に行きたいかな」「何を見たいかな」といった問い掛けに、反応が鈍い子どもたちであった。しかし、「雲にどんなポーズで乗りたいの」「誰と行きたいの」など、自分を主人公として考えることを促す問い掛けや、「これはどんな〇〇なの」「どんなところが不思議なの」などとより詳しく想像することを促す問い掛けから、子どもが自分なりの物語を紡いでいく姿が見られた。画用紙に花をいくつか描いた後活動が止まっていた子どもには、「雲の上のお花なんて、素敵だね」と共感の言葉掛けをすると、他にも花を描き加えていく姿が見られた。色とりどりの花が咲く空の世界という想像がさらに広がり、自信をもって表現し始めた姿と言える。このことから、子どもが表したいことを見付け想像を広げるために、教師が問い掛けたり、表現に共感する言葉掛けをしたりするという対話の在り方が有効であったと考える。

③ 昨年度までの鑑賞と対話の成果は、子どもが表したいことを見付け、想像を広げることにつながったことだと言える。しかしそのことに留まり、造形的な視点で子どもの表現力を育むことまでは至らなかったと考える。鑑賞や対話をする際に、「形や色、奥行き、バランス」などの造形的な視点に基づいた問い掛けを行うなど、表現を工夫していく子どもを育むための手立てを探していきたい。

こうした成果と課題を踏まえ、図画工作科における自律した学習者の姿を次のように捉える。また、自律した学習者が育つ授業デザインの具体的な取組を次のように設定する。

## 2 図画工作科における自律した学習者の姿

- ① 形や色などに関わる造形的な気付きを自ら獲得し、表現につなげる姿
- ② 表したいことに対して、物語を紡ぐように想像を広げていく姿
- ③ 造形的な視点に基づき、自分なりの意図をもって表現を発展させていく姿



## 3 授業デザインの具体的な取組

- 自分にとって必要なタイミングで造形的な気付きを獲得できる場づくりをする。
- 想像を広げていく助けとなるように対話する。
- 造形的視点に基づいて、表現の意図を尋ねたり、表現や鑑賞の活動を価値付けたりする。

## 令和7年度「図画工作科の資質・能力」表

※□は、資質・能力の取り扱い学年、■は、定着学年を示す。

内容		学習指導要領との関連内容	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
図工科の学びに向かう力、人間性等	a1	楽しく表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わう。	1.2AB(1)(2)	■	■	■	■	■	■
	a2	進んで表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わう。	3.4AB(1)(2)		□	■	■	■	■
	a3	主体的に表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わう。	5.6AB(1)(2)				□	■	■
	a4	形や色などに関わり楽しい生活を創造しようとする。	1.2AB(1)(2) 3.4AB(1)(2) 5.6AB(1)(2)	■	■	■	■	■	■

図工科の各領域の 付けたい力 「思考力・判断力・ 表現力等」 A表現(1)(2) 【造形遊び】	b5	身近な自然物や人工の材料の形や色などを基に造形的な活動を思い付く。	1.2A(1)(2)	■	■	■	■	■	■
	b6	感覚や気持ちを生かしながら、どのように活動するのかについて考える。	1.2A(1)(2)	■	■	■	■	■	■
	b7	身近な自然物や場所などを基に造形的な活動を思い付く。	3.4A(1)(2)			■	■	■	■
	b8	新しい形や色などを思い付きながら、どのように活動するのかについて考える。	3.4A(1)(2)			■	■	■	■
	b9	材料や場所、空間などの特徴を基に造形的な活動を思い付く。	5.6A(1)(2)					■	■
	b10	構成したり周囲の様子を考え合わせたりしながら、どのように活動するのかについて考える。	5.6A(1)(2)					■	■

図工科の各領域の 付けたい力 「知識及び技能」 A表現(1)(2) 【造形遊び】	c11	身近で扱いやすい材料や用具に十分に慣れる。	1.2A(1)(2)	■	■	■	■	■	■
	c12	並べたり、つないだり、積んだりするなど手や体全体の感覚を働かせ、活動を工夫してつくる	1.2A(1)(2)	■	■	■	■	■	■
	c13	材料や用具を適切に扱う。	3.4A(1)(2)		□	■	■	■	■
	c14	前学年までに扱った材料や用具についての経験を生かす。	3.4A(1)(2)		□	■	■	■	■
	c15	組み合わせたり、切ってつないだり、形を変えたりするなどして、手や体全体を十分に働かせ、活動を工夫してつくる。	3.4A(1)(2)		□	■	■	■	■
	c16	活動に応じて材料や用具を活用する。	5.6A(1)(2)				□	■	■
	c17	前学年までに扱った材料や用具についての経験や技能を総合的に生かす。	5.6A(1)(2)				□	■	■
	c18	前学年までに習得した方法などを組み合わせたりするなどして、活動を工夫してつくる。	5.6A(1)(2)				□	■	■

図工科の各領域の 付けたい力 「思考力・判断力・ 表現力等」 A表現(1)(2) 【絵・工作・立体】	d19	感じたこと、想像したことから、表したいことを見付ける。	1.2A(1)(2)	■	■	■	■	■	■
	d20	好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように表すかを考える。	1.2A(1)(2)	■	■	■	■	■	■
	d21	感じたこと、想像したこと、見たことから、表したいことを見付ける。	3.4A(1)(2)		□	■	■	■	■
	d22	表したいことや用途などを考え、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかを考える。	3.4A(1)(2)		□	■	■	■	■
	d23	感じたこと、想像したこと、見たこと、伝えたいことから、表したいことを見付ける。	5.6A(1)(2)				□	■	■
	d24	形や色、材料の特徴、構成の美しさなどの感じ、用途などを考えながら、どのように主題を表すかを考える。	5.6A(1)(2)				□	■	■

図工科の各領域の 付けたい力 「知識及び技能」 A表現(1)(2) 【絵・工作・立体】	e25	身近で扱いやすい材料や用具に十分に慣れる。	1.2A(1)(2)	■	■	■	■	■	■
	e26	手や体全体の感覚などを働かせて表す。	1.2A(1)(2)	■	■	■	■	■	■
	e27	表したいことを工夫して描いたりつくったりする。	1.2A(1)(2)	■	■	■	■	■	■
	e28	材料や用具を適切に扱う。	3.4A(1)(2)		□	■	■	■	■
	e29	前学年までの材料や用具についての経験を生かして表す。	3.4A(1)(2)		□	■	■	■	■
	e30	手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫する。	3.4A(1)(2)		□	■	■	■	■
	e31	表現方法に応じて材料や用具を活用する。	5.6A(1)(2)				□	■	■
	e32	前学年までに扱った材料や用具についての経験や技能を総合的に生かして表す。	5.6A(1)(2)				□	■	■
	e33	表現に適した方法などを組み合わせたりするなどして、表したいことに合わせて表し方を工夫する。	5.6A(1)(2)				□	■	■

図工科の各領域の 付けたい力 B鑑賞	f34	自分たちの作品や身近な材料などを鑑賞する。(身の回りの作品など)	1. 2B	■	■	■	■	■	■
	f35	造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて、感じ取ったり考えたりする。	1. 2B	■	■	■	■	■	■
	f36	自分たちの作品や身近な美術作品、製作の過程などを鑑賞する。(身近にある作品など)	3. 4B		□	■	■	■	■
	f37	造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりする。	3. 4B		□	■	■	■	■
	f38	自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみのある美術作品、生活の中の造形などを鑑賞する。(親しみのある作品など)	5. 6B				□	■	■
	f39	造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりする。	5. 6B				□	■	■
	f40	鑑賞活動を通して、自分の見方や感じ方を広げる。	1.2B(1)(2) 3.4B(1)(2) 5.6B(1)(2)	■	■	■	■	■	■

図工科の〔共通事項〕 「知識」 「思考力・判断力・ 表現力等」 A表現 B鑑賞	g41	形や色の同じ、違う、似ている、似ていない、大小、長短、丸・三角・四角などの大まかなまとまり、触った感じなどを捉える。	1.2AB	■	■	■	■	■	■
	g42	偶然見付けた形や色、見立てなどを基に、自分のイメージをもつ。	1.2AB	■	■	■	■	■	■
	g43	形の柔らかさ、色の暖かさ、それらの組み合わせによる感じ、重なり、前後、色の明るさ、質感などを捉える。	3.4AB		□	■	■	■	■
	g44	形や色の感じ、自分の思いや経験などを基に、自分のイメージをもつ。	3.4AB		□	■	■	■	■
	g45	動き、奥行き、バランス、色の鮮やかさ、方向感、材質感、時間的な変化の動き、量感などを捉える。	5.6AB				□	■	■
	g46	形や色などの造形的な特徴を基に、具体的なイメージや、抽象的なイメージをもつ。	5.6AB				□	■	■

<図工科の学びを支える造形的な「見方・考え方」>

- a 対象や事象を形や色などの造形的視点で捉える。(形の大小, 色の濃淡, 動き, バランス, 色の鮮やかさ, 形や色の感じなど)
- b 自分のイメージをもちながら意味や価値をつくり出す。(表したいことをもつ, 自分と対象との関わりを深めるなど)

低学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・並べる ・つなぐ ・積む ・重ねる ・かぶせる ・丸める ・破る ・巻く ・つるす ・たらす ・ちぎる ・丸める</li> <li>・のぼす ・同じ違う ・似ている似ていない ・大小 ・長短 ・丸, 三角, 四角の大まかなまとまりでとらえる</li> <li>・見立てる</li> </ul>
中学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・変形 ・質感 ・色の組み合わせ ・向き ・しかげや動くしくみ ・切ってつなぐ ・線の太さ ・絵の具の水加減(色の濃さ)</li> <li>・色の混ぜ方 ・色の明るさ, やわらかさ ・意味付ける</li> </ul>
高学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・奥行き ・強調 ・線の強さ ・バランス ・前後関係 ・形や色が互いに響き合う配置 ・動き ・時間的な変化 ・色の鮮やかさ</li> <li>・色の変化</li> </ul>